

運転保守状況(備考欄)

2号機

9月7日

第15回定期検査のため、1時00分発電を停止(原子炉停止9月7日5時51分)。
(中国電力(株)公表済)

9月7日

原子炉停止操作中の3時46分に、中間領域検出器(IRM)チャンネル15の指示が瞬間的に上昇し、「B-自動スクラム」の警報が発生。

なお、他の中性子検出器に変化はない。原因は調査中。(中国電力(株)公表済)

9月7日

第15回定期検査のため、5時51分に原子炉を停止し、原子炉冷却操作中(高温停止状態¹)のところ、17時45分頃から「D-主蒸気管モニタ」(低)²の警報が頻繁に発生したため、17時58分に原子炉施設保安規定に定める運転上の制限を満足しない状態であると判断。

その後、19時07分に原子炉が低温停止状態³となり、その結果、原子炉施設保安規定に定める運転上の制限を満足する状態に復帰。

原因は、現在、調査中。この事象による外部への放射能による影響はない。(中国電力(株)公表済)

1 高温停止状態

原子炉水温度が100以上の状態

2 「D-主蒸気管モニタ」(低)

主蒸気管の放射線量が低くなった場合に発生する警報で、測定系の異常を検知する。

3 低温停止状態

原子炉水温度が100未満の状態

9月18日

原子炉圧力容器内構造物等の点検作業を行っていたところ、炉心シュラウド外側のジェットポンプ付近のプレート上でピン状の異物(長さ約50ミリメートル、直径約6ミリメートル)、帯状の異物(長さ約40ミリメートル)およびテープ片状の異物(長さ約20ミリメートル)を発見し、9月20日までに回収。

回収した異物を調査したところ、ピン状の異物(金属製、ピン本体に割りピン1本が装着されたもの)については、建設中(昭和63年)の試運転時に発生した原子炉給水外側隔離逆止弁の開閉表示装置の破損部品の一部と推定。

今後、未発見の部品(ワッシャー2枚、割りピン1個)が原子炉の運転に与える影響について、評価を行う。

また、帯状の異物(プラスチック質)およびテープ片状の異物(紙質)については、定期検査中の作業において使用した作業用消耗品の破片であるものと推定。今後、定期検査期間中の異物混入対策について再徹底を図る。(中国電力(株)公表済)

9月25日

9月25日10時20分頃、原子炉建物地下2階にある圧力抑制室下部の床面に溜まり水があることを確認。

水の漏えい箇所を調査したところ、定期検査において開放点検を行っている残留熱除去系の弁から漏えいしたことを確認したため（発見した時点では漏えいは止まっていた）、直ちに当該弁の上流側に設置している隔離弁を閉止。

漏えいが発生した原因は、当該系統の洗浄用水受けタンクのポンプが自動起動した際に、当該弁の上流側に設置している弁（通常、閉止状態で管理）を別の点検作業に伴い開状態にしていたため、タンク内の水が配管を通して当該弁に流れ込み漏えいしたものであった。

この事象による作業員の被ばくおよび外部への放射能による影響はない。

なお、漏えい水の量は約660リットル（放射能量：約81万ベクレル）で、紙ウエスにより拭き取り回収した。

今後は、弁の状態を確実に確認するなど作業管理を徹底する。（中国電力（株）公表済）

10月14日

原子炉再循環系配管の溶接継手部について、超音波探傷検査による点検を実施したところ、B-原子炉再循環系配管と原子炉浄化系配管の接続部分の溶接継手部にひびと思われる信号（2箇所）を確認。

今後、ひびの長さ、深さ等の詳細調査を行ったうえで必要な処置を施す。（中国電力（株）公表済）